★シリーズ「防災教育の現場から」では、県内の小中学校での先進的な取組み事例を紹介しています。

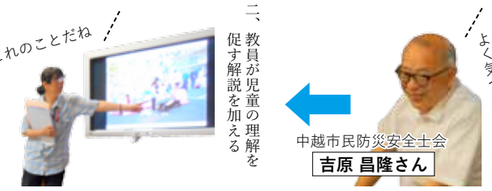
シリーズ
防災教育の現場から
第 12 回
見附市立田井小学校

防災キャンプの事前学習：
中越地震直後の避難の様子を収めた写真を見て気になる点を考えゲストに質問する

防災キャンプの効果を上げる３つの工夫

東日本大震災発生以降、学校を避難所と想定し、日帰りまたは一泊二日程度で被災時の生活を体験する「防災キャンプ」が全国各地で行われています。

今回は、当機構が防災教育のコーディネートで携わっている、見附市立田井小学校の防災キャンプを中心とした一連の学習についてご紹介します。



「防災キャンプ」のねらいは、災害時に役立つ知識・技能を身に着けるため、家庭・地域との連携を図るためなど実施主体によってさまざまである。田井小学校では、学校が避難所になった場合に必要な備えを、児童・教員・保護者が一緒に考える機会として、避難所設置訓練を企画した。

この取組みのポイントとその効果は以下の三点である。

①体験のみにならないよう児童の思考に合わせて事前学習を組立てたこと
⬇災害時の状況や避難生活のイメージを膨らませ、設置訓練をする動機が明確になった。
②ゲストと児童の間に教員が入り三者の対話形式で体験談を聞いたこと
⬇ゲストの語りが最大限活かされ、児童の興味がより引き出された。
③保護者も巻き込んで答えのない課題に取り組んだこと
⬇立場や考え方の違う人と協調することの大切さ、難しさに気付くきっかけになった。

①について（事前学習の流れは左ページ参照）、災害時のイメージがないまま避難所設置訓練に臨むのではなく、体験者から話を聞き、自分の学校、家庭に照らし合わせて考える手順を踏んだ。これにより、**設置訓練を行う意味が腑に落ちた状態で活動に入ることができた。**

②の体験談をゲストから聞く場面においては、ゲストが用意した写真について、教員と児童とゲストの三者で対話をしながら理解を深めていった。事前に児童へ写真を見せて、質問したいことを考えさせ、教員とゲストで写真から伝えたいことを共有した。それぞれの**児童の特性を理解した教員がゲストと児童の間に入る**ことで、興味がより引き出され、その結果、当初想定していなかった細かな部分までエピソードを共有することができた。この活動を通じて、避難生活において配慮が必要な他者への視点も育むことができた。

③について、避難所設置訓練前のレイアウト作戦会議において、本部や安否確認の掲示板の配置で**児童と保護者の意見が分かれる場面**があった。意見の食い違いはそれぞれがもつ機能の捉え方の違いからくるもので、作戦会議の場では決着がつかず、現場でやりながら考えてみようということになった。いざやってみると、作戦会議で意見が分かれた部分以外にも、**その場にいる人で話合いながらレイアウトを改善していく姿**が見られた。

災害時は絶対的な正解のない大人でも判断に迷う場面の繰り返しである。防災教育は単に自然災害から命を守るための対処行動を教えるだけではなく、**周囲の人と協調しながら正解のない課題に立ち向かう姿勢を育む**こと、まさに**これからの社会を生きる力の育成にも繋がっている**。引続き、そういった防災教育の可能性について各校の支援を通して考えていきたい。

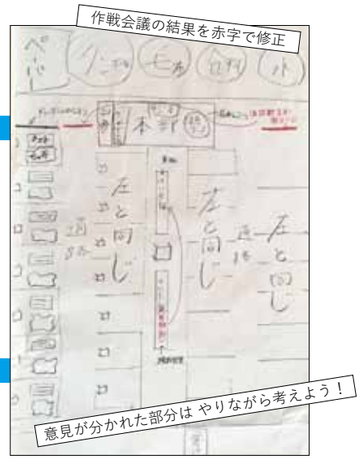
（地域防災力センター　松井　千明）

見附市立田井小学校５・６年生「防災キャンプ」実施概要

時 期：（事前学習）平成 29 年 6 月上旬～下旬 ／（防災キャンプ）平成 29 年 6 月 24 日（土）
対 象：見附市立田井小学校 5・6 年生（7 名）

日帰りの「防災キャンプ」を中心とした学習の流れ

6 月　8 日　中越地震を体験した方から体験談を聞き避難生活の様子を知る
6 月　上旬　避難生活で活用できそうな学校の設備・備品を調べる
6 月　上旬　避難所のレイアウトを個人で考える
6 月　中旬　考えた避難所のレイアウトを保護者に見せてコメントを貰ってくる
6 月　中旬　保護者のコメントをふまえて全員の考えを 1 つのレイアウトにまとめる
6 月 24 日　学習参観日
・救急救命法　・見附市職員による見附市で起こる災害についての講話
・全校へ避難所レイアウトの発表　・親子で避難所設置に当たってレイアウトや手順の作戦会議
・避難所設置訓練　・災害食づくり



中越市民防災安全士会の
石黒 みち子さん　羽入 美子さん
にもお世話になりました！

担当した先生より学習を通しての感想

当校では、平成二七年度から本格的に防災教育を始めました。手探りで進める中、中越防災安全推進機構さんの存在を知り、講師紹介をお願いしました。すると、カリキュラムの作成や授業の展開の相談など多岐にわたって支援して下さいました。

今年度の防災教育で初めて避難所を親子で設置する活動を取り入れました。「避難所の設置や運営に積極的に関ろうとし、災害時でも、お年寄りや赤ちゃん等に寄り添う気持ちを持つこと」がねらいでした。目標は概ね達成され、しかも、プレゼンの力や話し合う力もついたように思います。中越大震災の体験談は、子どもの心を動かすことも実感しました。

教頭
近藤 由紀子 先生